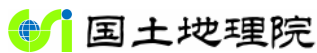


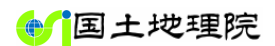
国土地理院の取り組む 地理教育支援について

国土地理院 応用地理部長
(防災・地理教育支援 総括)
中島 秀敏



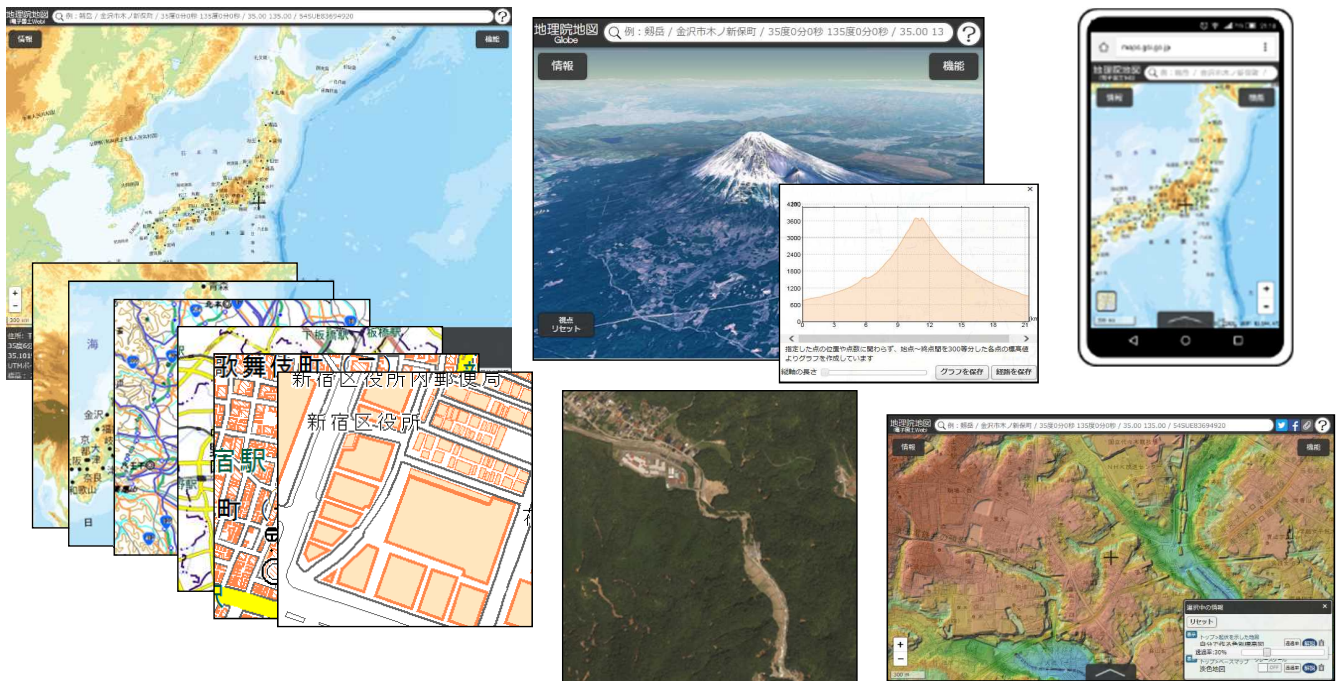
Geospatial Information Authority of Japan

国土地理院と地理教育～地形図



地形図は、これまでも社会や地理の教科書に掲載され、
地図記号や等高線の読図などが授業や入試で取り上げられてきた。

ウェブ地図である『**地理院地図**』は、国土の地理空間情報や災害に関する**情報提供のプラットフォーム**として、また**簡易なGIS**として、**これからの教育現場での活用が期待**されている



2

「防災・地理教育」の必要性

背景①：平成30年7月豪雨

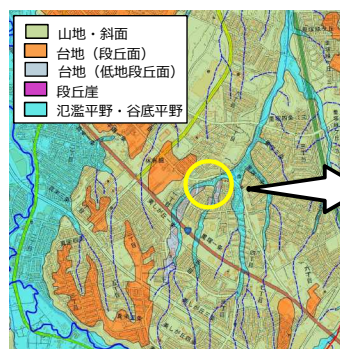
- 広島県坂町小屋浦地区では、**過去に土砂災害があったことを記した石碑**が設置されていた
- 避難勧告を受けた避難率は、町全体の半分



＜避難勧告が出されて2時間後までの避難率＞
坂町全体：3.9% 小屋浦地区：1.9%

背景②：北海道胆振東部地震

- 札幌市清田区では、**地形特性が脆弱な場所を盛土造成した住宅地**で液状化が発生した



平成30年（2018年）北海道胆振東部地震（9月6日）直後に作成した地形分類図（9月12日作成、10月12日更新）



札幌市清田区の液状化

地域の災害危険性を理解する能力が必要

2022（令和4）年度から高校「地理総合」が必修修化
地理教育を通じて、地域の防災力を高める

3

- ・自然災害の起こりやすさは、地形や土地の成り立ちと深く結びついている。
- ・国民一人ひとりが地図を読み解き（空間認識能力）、足下の災害リスクを理解して、解決策を考察する能力を身につければ、適切な避難などの**具体的な行動に結びつけることができる**。

空間認識能力を身につけるステップ（測量行政懇談会報告書より）

- ①「周囲の状況を五感を使って**把握**できる能力」（小学校）
- ②「地域の特徴や土地の成り立ちを**理解**できる能力」（中学校）
- ③「地図や地理空間情報を活用して課題解決に向けた**考察**ができる能力」（高等学校）

4

災害を知り災害に備えるための地理教育

- ✓ 頻発する自然災害から命と生活を守るため、国民ひとりひとりが**地域の災害リスクを理解し、防災意識を高める**ことが喫緊の課題。
- ✓ 自然災害は近年、激甚化しつつ多発しており、これに「備える」ために**国民のハザードマップの読解能力の向上**は緊急の課題
- ✓ **幼少期から地形や土地の成り立ちを理解し、ハザードマップを読み解く力を身につける**ことが必要。
- ✓ 地図を用いて地域の災害リスクを理解することは**地理教育**が担っており、地理教育支援を進めることは**防災・減災**に直結する。
- ✓ 子どもたちが**学校で得た知識を家族と共有し、地域・社会の共有財産**とすることができれば効果は大きい。

5

1) Web『地理院地図』の有効性

- ✓ 日本の国土の位置と広がりや高さについて、**最新の正確な地図情報を広く提供する地理教育の基本**であり、引き続き必要。
- ✓ 色別標高図、陰影起伏図などの地形表現や断面図作成の機能を有し、**地理教育を行う際のツール**としても極めて有効。

2) 支援の目的の明確化

- ✓ これまでも、「地図と測量の科学館」を通じた児童生徒向けのイベントや、全国児童生徒優秀地図作品展、出前授業、教員研修への協力、教科書出版社への説明会、インターンシップ、教育支援ポータルの開設などの施策を実施してきた。
- ✓ その取組が教育現場に浸透し国民全体に普及するためには、**「地理教育の振興」と「地域の防災意識涵養」を支援の目的として明確化し、各施策の連携**を図ることが重要。

今後重点的に取り組む、防災・地理教育支援策 (測量行政懇談会報告書を受けて)

赤文字 = 本日より紹介します

① 防災・減災のための「防災地理情報」の充実

地形特性情報

どこが高いか一目瞭然。昔の川の流路がわかる。

災害履歴情報

過去の災害履歴を先人が残してくれている。
温故知新。防災地理情報は防災減災の基礎情報。

「備え」面での取組を強化

② 「防災地理情報」の有効性の評価と教材化

水害

地形分類(自然地形)

評価・分析

氾濫平野などの低地帯に浸水が発生

適切な避難行動
～災害から逃げる～

教材化

③ 地理教育に関連する優良事例の普及

地図作品展における優良事例

④ 実体験による地理への親しみの醸成

地図と測量の科学館や地方における実体験展開

⑤ 教育関係者に届く情報の提供

小学生向け

中学生向け

学習段階に合った情報や活用例を的確にWebで提供

⑥ ウェブ地図『地理院地図』のコンテンツ充実と機能向上

震災遺構

たろう観光ホテル
出典：震災伝承ネットワーク協議会事務局

コンテンツの充実例

よりわかりやすい3D表示

機能向上の例

- ・ 昨年度までの地理教育支援は、院内各部から選抜された「地理教育支援チーム」が対応していた
- ・ 児童生徒地図作品展やGeoアクティビティコンテストなど、組織で対応している施策もあったが、横展開が不十分だった

◎ 今年度からは施策ごとに部長級と課長級の責任者を決め、それぞれ**組織として対応＝本来業務化**

◎ 月1回程度、課長級の「防災・地理教育支援連絡会議」を開催して情報交換を図り、**施策の横展開を推進**

防災・地理教育支援 総括責任者：応用地理部長

総括課長：応用地理部 企画課長

事務局：応用地理部 地理情報処理課

8

まとめ

- **3年後（令和4年度）に高等学校の地理必修化を受け、今、子供達への地理教育や防災教育の支援をより強化するタイミング**

<国土地理院が重点的に取り組む防災・地理教育支援策>

- ① Web「**地理院地図**」の**防災地理情報**の内容を充実しつつ、**教材**として使って頂くための取組みの強化
- ② **教員**を対象に、国土地理院のコンテンツが教育現場で活用されるよう、**学習段階に応じた情報や活用例**を的確に提供
- ③ 地理教育に関する**優良事例**を育成し、それを**横展開**する取組みの強化
- ④ 教育関係者はもちろん、中央では関係各部局や気象庁、地方では地方整備局や気象台などの関係機関や民間団体・学術団体との**連携の重視**

9